

# 創業130周年企業紹介



代表取締役社長 菊山征二氏

## 菊山鋼材株式会社

創業●明治27(1894)年5月1日

所在地●津市野崎垣内岩田363

代表者●代表取締役社長 菊山征二

資本金●2,500万円

事業内容●建設資材・施工管理・販売、  
不動産部門・マンション・倉庫・  
店舗賃貸

### これまでの歩み

明治27(1894)年5月1日

菊山金物店創業

昭和44(1969)年5月

菊山三千郎が代表取締役に就任

昭和51(1976)年3月

津市弓屋敷に鋼材センターを建設

昭和62(1987)年3月

不動産部を設立

賃貸マンション

「メゾン・ドゥール」I・II  
を建設

平成5(1993)年1月

津市野崎垣内岩田に  
本社及び鋼材センター  
を建設

平成28(2016)年11月

菊山征二が代表取締役に  
就任

令和6(2024)年5月

創業130周年を迎える



賃貸マンション「メゾン・ドゥール」I・II



### ●伊賀から津へ

祖父、菊山弥三郎は1872年(明治5年)伊賀荒木村のごく普通の農家の長男として生まれました。四方を山に囲まれた平和でどかな伊賀の盆地は毎朝東方の青山高原の山脈から昇る朝日に照らし出されます。その山脈の向こうには広く青い海と豊稔の地、津や松阪の城下町があると父から聞き、少年の心はいつしかそこで活動している自分の姿を夢見ていました。

ある日、父から1台の荷車を譲り受けた時、胸の高鳴りを抑えながらついに夢が実現出来そうな喜びをかみしめました。近隣の農家で、芋・大根・ネギ等「山の幸」をいっぱい積み込んで長野峠を越えて津へ向かいました。祖父 弥三郎(17歳)、後ろから押す弟 竹市(14歳)。兄弟で津の街々で野菜を売りさばき、その足で阿漕浦へ行き、煮干し・昆布・干物等「海の幸」をいっぱい買い込んで、再び長野峠を越えて伊賀の農家を一軒一軒訪ねて行商を続けました。

### ●命を賭しての長野峠越え

伊賀と津での行商は苦労の連続でした。津から伊賀へは標高500mの急峻な曲がりくねった長野峠を越えなければなりません。荷台いっぱい積んだ車を引く事は並大抵ではなかったのです。時々、荷車の前後を交代しながらやっと長野峠を越えました。

それ以上苦労したのは、深夜、峠の頂上で強盗に遭遇しお金や荷物はおろか命までもとられそうになり、何度も何度も懇願して少年であるがゆえに見逃してもらった事があつたと後年語ってくれました。それでもひたすら行商を続けられたのは、津で商売をしたいが為でした。

### ●念願の銀行口座開設

行商して5年、1894年(明治27年)5月1日、念願であつた百五さんとの口座開設が実現し、その日が記念すべき創業日です。(祖父)弥三郎 22歳、(弟)竹市は19歳でした。新町通りに開店した店は、鍋・ヤカン・釜の日用品や砂糖・塩・醤油等が並んだ雑貨店でしたが、戦後はトタン板・釘・針金から、鉄筋・サッシ・板金等の建設資材へと移行し現在に至っています。



昭和23年津観音にて  
左(祖父)弥三郎、右 征二

### ●東北大震災で福島第一原発へ

震災直後、東京のゼネコンから福島原発の汚染水処理槽が不足して困っているので大至急、鉄筋工20名を2カ月間派遣して欲しいとの緊急要請が入りました。急遽、北海道と大阪の職人を編成して当社の常務の陣頭指揮のもと防護服を着用し、放射能や作業時間の制約を受けながら無事完工し責任を果たしました。

### ●県外進出と大型物件受注

その後、長野県 佐久JA総合病院、東京 東大和市の総合文化センター、県立福井病院、東芝四日市工場、伊勢日赤病院、三重大学附属病院、百五銀行本部棟・本店棟、津市サオリーナ、岐阜県庁舎、岩手 東芝キオクシア、愛知アリーナ、中部電力津支店等を手掛けさせてもらっています。

### ●家訓

### —縁を大切に—

祖父 弥三郎が故郷伊賀を離れて、新天地 津での想いは「縁を大切に」でした。

今回、創業130周年を迎えられる事は、この言葉を実践してきたからです。初代は(祖父)弥三郎・(弟)竹市、2代目は(父)三朗、(その兄)弥太郎、3代目は(長男)三千郎(令和4年11月没)85歳、(弟)私、征二です。それぞれ各時代、兄弟2人して共に歩んできました。当社は兄弟2人でやっと一人前なんです。

### ●夢は創業150周年

あと20年もすれば私は100歳になり、会社は150周年です。次の代が安定した経営をして5代目にバトンタッチをしてくれると目標の150周年を迎えられます。なんとか石にかじりついてでも長生きして記念すべき日を一緒に迎えたいものです。その時は、祖父の墓前に「家訓」を守って今日の日を迎える事が出来たと報告します。